



それ、

ごみ？

※この特集では、「ごみ」と「資源」を明確に区別するため、通常ご家庭などで資源ごみとして緑色のごみ袋に入れて処理する対象となるものは全て「資源」と表記しています。

**ごみか、資源か
決めるのは「あなた自身」**

生活の中で使われる「ごみ」という単語。広辞苑第7版[※]によると「物の役に立たず、ない方がよいもの。ちり。あくた。ほこり。また、つまらないもの」とされています。

近年、資源の有効活用が社会課題となり、再使用や修理、ごみの発生を少なくする考え方など、ごみを出さないような取り組みなどが注目されてきました。

例えば何らかの形で、再び社会の中で活用できるものは「ごみ」ではなく、貴重な「資源」です。ごみを簡単に出さない意識は資源の有効活用につながるだけでなく、ごみ処理に係る費用を減らし、その分を皆さんの暮らしに役立つ事業への投資につなげられます。

「資源」はこれからの社会の中で役に立つもので、あった方がよいものです。今、皆さんが捨てようとしているものは「ごみ」ですか？ 限りある貴重な「資源」ではないですか？ ごみ箱やごみ袋の中を見て、しっかりと分別できているかを確認してみましょう。

※新村出編・岩波書店

**カレンダーや辞典で
分別方法・収集日を確認**

今年の3月に各家庭に配布した「資源とごみの分け方・出し方分別辞典」(左写真)には、ごみの種類や分別の詳細を掲載しています。

また、盛岡・紫波地区環境施設組合ホームページ(左下のQR)では、スマートフォンなどでデータ版のごみ分別辞典、種類別のごみ収集日が分かるごみカレンダーを確認できます。分別の仕方に迷ったとき、収集日を確認したいときなどに、ぜひ活用しましょう。



6〜9ページの内容

- 1人あたりのごみ処理費用は？
- 個人や家庭で取り組めることは？
- ごみ減量推進員とは？

リサイクルモア



日にち、時間を問わず資源を持ち込むことができます。自治会ごと集積所のごみ収集日は毎月種類ごとに収集日が限定されていますが、ここでは自分の都合の良い時間で持ち込むことができます。

また、重量に応じて、QUOカードなどに交換できるポイントも貯まりますので、ぜひご利用ください。回収品や出し方など詳細は町ホームページ(QR)へ。

▼場所 町民総合体育館南側

古着・古布、割りばし



県内の福祉施設や企業などと連携して実施。古着はリユース品に、古布は再び衣類に生まれ変わるか、雑巾に加工されます。併せて回収している割りばしはティッシュペーパーに生まれ変わります。

また、携帯電話などの小型家電の回収も行っていますので、ぜひご利用ください。

▼場所・時間 役場南側玄関(平日午前8時30分～午後5時15分)、町公民館(火～日曜日の午前9時～午後9時30分)

資源の回収 こちらも便利！

各自治会で行われている資源回収に加え、資源の回収場所だけを見ると、時間や曜日などを問わず、持ち込みを受け付けている場所が町内に複数あります。普段の生活の中で、何かの「ついで」に活用していきましょう。

町の現状【令和3年度】

処理したごみの量 **10,840^{トン}**

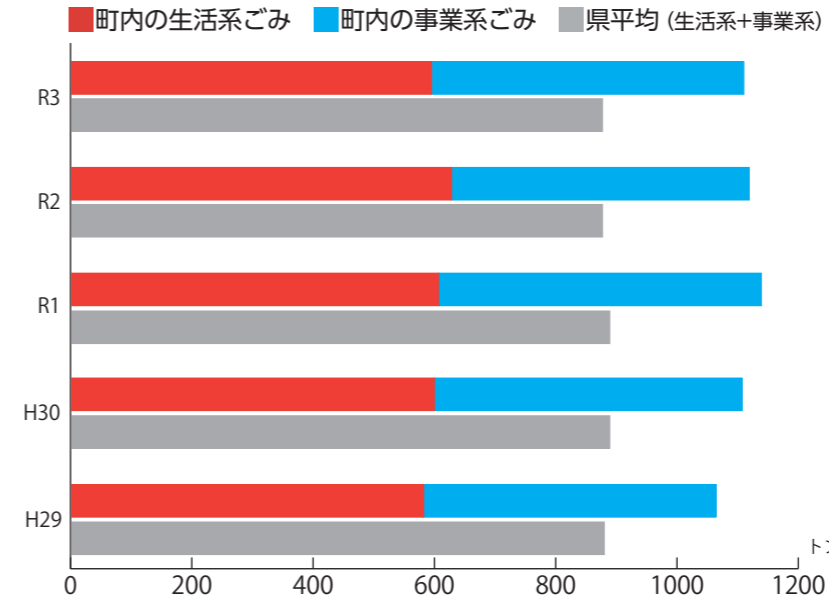
ごみ処理に使った費用 **約3億2,880万円**

町民1人あたりのごみ処理費用 **年間12,272円**
(令和4年3月末時点の26,792人で算出)

町のごみ処理 どうなってる？

令和3年度、町内で収集し盛岡紫波地区環境施設組合で処理したごみの量、処理費用などは左上の数量になりました。単純に考えると「自分が納めている税金のうち、毎年約1万2千円が、自分が出しているごみの処理に使われている」となります。この金額、皆さんはどう思いますか。高いか安いかは人それぞれの感じ方次第ですが、現実なのは、ほんの少しの工夫や行動で、この金額を少しでも減らすことができるということです。

一人一日あたりのごみ排出量(町と県の比較)



使い捨てレンズの空ケース回収



使い捨てコンタクトレンズの空ケースを回収するため、公共施設に回収ボックスを設置しています。空ケースは、さまざまなリサイクル品に生まれ変わる資源です。

ごみ箱に捨てることなく、回収ボックスに入れましょう。

▼場所 町役場1階町民ホール、町公民館1階、やはばーく1階情報コーナー、JR矢幅駅インフォメーションコーナー など

スーパーでの回収も便利



町内の各スーパーでも、ペットボトルやアルミ缶、古紙などの資源を回収しています。普段の買い物のついでに利用できますので、ご活用ください。

なお、利用する場合は中身を空にして洗うなど、**各店舗のルールを守りましょう。**

▼場所・時間 店頭回収を実施している各スーパーで、営業時間など、店舗ごとに設定している時間帯

リチウムイオンバッテリーの処分 店頭回収をご利用ください



リチウムイオンバッテリーなどの充電式バッテリーは、ごみ収集の対象ではなく、捨て方を誤ると発火の場合があり危険です。

これらのバッテリーは、ホームセンターや家電量販店の店頭回収で処分できます。回収可能な店舗は、一般社団法人JBRCホームページ(QR)「会員企業一覧」へ。



家電4品目の処分は 店舗引き取りなどをご利用ください

「テレビ」「冷蔵・冷凍庫」「洗濯機・衣類乾燥機」「エアコン」は、故障状態でもごみ集積所への搬入はできないため、次の方法で処分してください。詳細は町ホームページ(QR)へ。

▼処分方法(有料) ①購入した店舗での引き取り ②買い替えの際に店舗での引き取り ③一般廃棄物収集許可業者での引き取り ④郵便局でリサイクル券を購入して指定引取場所(日本通運(株)盛岡支店矢巾町流通センター南2-4-35 ☎637-6411)へ自分で持ち込み



■問い合わせ 役場町民環境課環境係 (☎611-2507)

ただの紙？いいえ、大切な「資源」です

燃やせるごみには、資源になるものが意外と多く混ざっています。特に、チラシや包装紙といったもの。実はこれ、製紙や古紙再生ボードの原料となる「紙」なんです。



分別するとき「汚れがないか」、「水に濡れていないか」などを確認しましょう！

思いが巡り、資源が循環する



町ごみ減量推進員協議会 会長
戸塚正美さん

平成9年のごみ減量推進員制度の発足時から活動に携わり、現在は会長として町のごみ減量や再資源化などの取り組みに尽力。家庭内でもごみ分別を心掛けており、上手に取り組む秘けつは「家族との役割分担」。

町ごみ減量推進員協議会の戸塚正美会長（土橋）は、平成9年に町ごみ減量推進員制度が発足した当初から在籍しています。平成22年4月には町のごみ減量の大きな転換点となる「指定ごみ専用袋」の運用が始まり、戸塚さんを含む各地の推進員は地域への周知に尽力しました。

**指定ごみ専用袋
地域への浸透に注力**

—専用袋が登場して10年以上経つが、導入当初の苦労は。戸塚 最初の頃は黄色い袋に資源ごみが入ってたり、緑色の袋で燃えるごみが出されたり、あ

るいはビンとカンが混ざった。」「こういう出し方はまずいですよ」と教えて理解してもらったのが私の仕事で、それを地域の方々に周知させるのは一苦労でした。

—活動の中で最も力を入れて伝えてきたことは。戸塚 生活する上でごみを出さないというのは100%無理。「だったら少なくともするにはどうすればいいか」ということを常に考えています。

例えばプラスチック、カン、ペットボトルなどを分別すると「ごみ」ではなくなる。1日10トン集まるごみの中から2トンが

資源になれば、燃やす量が2トン減ります。スタートの頃も今も、そういった考え方で、地域の方々に理解してもらおうように努力しています。

周知も分別も地道に、じいじい

—各地域の分別、資源回収の取り組みを見て感じることは。



町内で使用している指定ごみ専用袋

戸塚 過去には5年連続で資源回収コンクール1位となった自治会がありました。各世帯を回って資源回収をしてると聞きましたが、一戸一戸回るのは難しいですが、いかに一人一人に周知し、意識してもらおうことが大切だと思います。

—分別のこつ、町民へメッセージを。戸塚 例えば、ペットボトルの中身を洗う作業は、溜めてしまおうと大変ですが、1本ずつ、飲み切ったごとに少しずつ進めると楽だと思えます。そういった形で、今後もごみの減量などに協力をお願いします。



過去の広報やはばより

町ごみ減量推進員の制度が立ち上げられた平成9年にも、広報やはば（6月1日発行）でごみの減量化に向けた特集を掲載しました。

容器・包装リサイクル法が制定された年で、国として「大量生産・大量消費・大量廃棄」に関する諸課題への対応が本格化した時期に、町では推進員の活動が始まりました。

■ごみ処理や推進員に関する問い合わせ
役場町民環境課環境係 ☎611-2501

町内の各自治会では「ごみ減量推進員」が活動しています。推進員は自分の地域でごみの減量化や資源化に関する取り組みの中心的な役割を担っています。

ここでは、推進員が担当する地域の住民と連携してごみ減量に取り組む事例の紹介に加え、町ごみ減量推進員協議会の戸塚会長に聞く、推進員の活動に懸ける思いをお伝えします。

地域の分別リーダー ごみ減量推進員とは？

地元のベテランと推進員が連携 流通センターコミュニティ



分別状況の確認など作業を行う北川翠生クラブの皆さん。分別がきちんと行われているかなど、しっかりと確認しています。



流通センターコミュニティの大矢幸一会長、ごみ減量推進員の幅要一さん(左から)

資源回収の成果を長年挙げており、平成19年に開始した自治会対抗資源回収コンクール上位入賞の常連にもなっている、流通センターコミュニティ。町内の各自治会では、さまざまな工夫を凝らした資源回収の取り組みが行われていますが、ここでは、地域の老人クラブにあたる「北川翠生クラブ」へ資源回収に関する仕事を委託することで、成果を上げています。

北川翠生クラブには現在20人が所属。3〜4人がチームを組み、定期的にごみ集積所で作業する日を決め、ごみ袋の中を確認しています。アルミ缶とス

チール缶の混在、燃やせるごみの中に資源となるものがまぎれていないかもチェックします。

加えて、ごみ減量推進員が作成したチラシを「公民館だより」の中で紹介して地域内で回覧。ごみを出す時間や集積所の周知、ペットボトルのキャップとラベルをはがすことや紙パップを洗ってから出すことなど、アドバイスも掲載しています。

同コミュニティでごみ減量推進員を務める幅要一さんは「長年、先輩たちから受け継がれてきた取り組みの成果が表れています」と取り組みの状況を振り返りました。



流通センターのごみ減量推進員が不定期で発行するチラシ。具体的な分別方法はもちろん、地域住民がごみの分別を再認識するための呼び掛けにもなっています。